

6 3 6 1 - 1 0 2
平成 1 7 年 8 月 2 9 日

各関係機関の長
各病虫害防除員 殿

宮崎県病虫害防除・肥料検査センター所長

平成 1 7 年度病虫害発生予報第 5 号について
平成 1 7 年度病虫害発生予報第 5 号を発表したので送付します。

平成 1 7 年度病虫害発生予報第 5 号

向こう 1 か月間における農作物の主な病虫害の発生動向は、次のように予想されます。
発生予報の概要

作物名	病虫害名	発生量の 平年比	本文での 記載ページ
普通期水稻	穂いもち	やや少	2
	紋枯病	並	2
	ごま葉枯病	やや多	2
	トビイロウンカ	やや多	2
	斑点米カメムシ類	やや多	2
大豆及び野菜 類全般	ハスモンヨトウ等のチョウ目 (鱗翅目)害虫	並	3
施設果菜類	ウイルス媒介虫 (アブラムシ 類、アザミウマ類、コナジラミ類) シルバーリーフコナジラミ		3
			3
果樹全般	果樹カメムシ類		4
カンキツ	黒点病	並	4
	かいよう病	並	4
	ミカンハダニ	並	4
	チャノキイロアザミウマ	並	4
チャ	炭疽病	やや少	5
	もち病	並	5
	輪斑病	並	5
	チャノコカクモンハマキ	並	5
	チャハマキ	並	5
	カンザワハダニ	並	5
	チャノキイロアザミウマ	やや多	6
	チャノミドリヒメヨコバイ	やや少	6
	クワシロカイガラムシ	多	6

作物の生育状況 (8月中旬)

普通期水稻は幼穂伸長期～穂ばらみ期、大豆は栄養成長期、温州みかんは果実肥大期、茶は3番茶の摘採前後であった。

9月の気象予報

気温は平年より高く、降水量・日照時間は平年並と予想されている。

(1か月予報 鹿児島地方気象台 8 / 26 発表)

発生予報の根拠および防除対策

普通期水稲

1 穂いもち（やや少）

[予報の根拠]

- 1) 8月中旬の穂いもちの発生面積率23.8%（平年44.7%）、発病株率8.2%（平年13.6%）は平年よりやや少ない。
- 2) 今後1か月は平年に比べ晴れの日が多く、気温は平年より高い、降水量は平年並と予想されている。

[防除上の注意]

- 1) 穂いもちの発病程度が高いほ場では、収穫前使用日数等に注意して穂揃期に防除する。

2 紋枯病（並）

[予報の根拠]

- 1) 8月中旬の発生面積率33.4%（平年45.8%）は平年よりやや少、発病株率10.2%（平年9.5%）は平年並である。
- 2) 9月の気温は平年より高いと予想されている。

[防除上の注意]

- 1) 穂ばらみ期以降はイネの抵抗性が弱まり、高温多湿条件下では上位葉鞘へ進展しやすいので、発病程度が高いほ場では、収穫前日数に注意して防除する。

3 ごま葉枯病（やや多）

[予報の根拠]

- 1) 8月中旬の発生面積率9.5%（平年3.9%）、発病度1.3（平年0.4）は平年よりやや多である。

[防除上の注意]

- 1) 出穂後の本病の発生は穂枯れの原因になるので、発生の多いほ場では穂揃い期後に防除する。

4 トビイロウンカ（やや多）

病害虫防除情報第3号参照

[予報の根拠]

- 1) 8月中旬の発生面積率9.5%（平年10.7%）は平年並、10株当たり虫数0.4頭（平年0.1頭）は平年よりやや多である。

[防除上の注意]

- 1) 成虫・幼虫ともに株元に生息しているので、防除の必要があるときは株元まで薬剤が十分到達するようにする。（要防除密度は短翅型雌成虫が株当たり0.2頭）

5 斑点米カメムシ類（やや多）

病害虫防除情報第3号参照

[予報の根拠]

- 1) 8月中旬の発生面積率14.3%（平年10.9%）は平年よりやや多、20回振り虫数0.2頭（平年0.3頭）は平年並である。
- 2) 予察灯への誘殺状況は、国富町でミナミアオカメムシが8月2～3半旬に、また都城市でクモヘリカメムシが7月5～8月2半旬に、各々平年に比較して多数誘殺されている。

[防除上の注意]

- 1) 本虫による被害は品質を低下させ等級格下げの主要因になるので、穂揃期とその7～10日後に防除するが、残存虫が多い場合は収穫前使用日数等に注意して追加防除する。

大豆及び野菜類

1 ハスモンヨトウ等のチョウ目害虫（並）

[予報の根拠]

- 1) 8月中旬の調査時点での、ハスモンヨトウの食害を受けた大豆のほ場面積率は87.5%（平年78.3%）は平年並、食害度4.1（平年8.8）は平年よりやや少である。
- 2) 8月中旬のサツマイモほ場でのハスモンヨトウ・ナカジロシタバ等チョウ目害虫によるの食害面積率16.4%（平年13.1%）は平年よりやや多である。
- 3) 7月下旬から8月中旬のハスモンヨトウのフェロモントラップでの誘殺数は、県内3地点（都城市、西都市、佐土原町）とも平年より少ない
- 4) 7月下旬から8月中旬のタバコガ、オオタバコガ（西都市）の誘殺数は平年並である。

[防除上の注意]

- 1) 早期発見に努め、若齢幼虫期の防除を徹底する。

施設果菜類

1 ウイルス媒介虫（アブラムシ類、アザミウマ類、コナジラミ類）

[防除上の注意]

- 1) ウイルス病の多くは害虫によって伝搬され、特に生育初期に感染するほど被害が大きくなる。育苗時から媒介虫の防除を徹底し、ウイルスの感染防止と苗による本圃への害虫の持ち込み防止を図る。また栽培に当っては防虫ネットや近紫外線カットフィルムを張りウイルス媒介虫の侵入を防止するとともに、害虫の生息場所となる周辺雑草の除去を行う。
- 2) 育苗ハウスに黄色・青色粘着板を設置し、密度低下に努めるとともに、媒介虫の発生が確認された場合は、すぐに殺虫剤の散布を行い徹底的に駆除する。

<虫媒伝染する主なウイルス病>

媒介虫	病原ウイルス	主な感染作物
シルバーリーフコナジラミ	TYLCV	トマト・ミニトマト、トルコギキョウ
アザミウマ類	TSWV	ピーマン・トマト・キク
ミナミキイロアザミウマ	MYSV	キュウリ・メロン
アブラムシ類	CMV、ZYMV PRSV	キュウリ・メロン・ニガウリ

2 シルバーリーフコナジラミ

[防除上の注意]

- 1) 最近、ピーマンやトマト、キュウリなどに薬剤感受性の異なるタイプのシルバーリーフコナジラミが多発している事例が確認されており、薬剤のみによる防除は困難であるので、防虫ネットや黄色粘着板等を組み合わせた総合的な防除対策を講じる。
- 2) シルバーリーフコナジラミは多くの植物に寄生し、増殖するので、育苗・栽培施設内外の除草を徹底するとともに栽培目的以外の作物や観葉植物等持ち込まない。

果樹全般

1 果樹カメムシ類 (-)

[防除上の注意]

- 1) 果樹カメムシ類は園外から飛来し、地域や時期によって発生量が大きく変動するので、園内外を見回り、早期発見・早期防除に努める。
- 2) 本年は、スギ・ヒノキの毬果量が多く、秋期のカメムシの発生量は多くなる可能性が高いと考えられる。
- 3) 県内各地から採取したヒノキ毬果の口針鞘数調査(7月下旬～8月上旬)では、果樹園への飛来は9月中旬頃と予測された。

カンキツ

1 黒点病 (並)

[予報の根拠]

- 1) 8月中旬の果実での発生面積率20.0%(平年37.8%)は平年よりやや少、発病果率4.3%(平年8.8%)は平年並である。

[防除上の注意]

- 1) 伝染源となる枯れ枝は、可能な限り取り除き園外に持ち出して焼却処分する。
- 2) 雨が多いと多発する恐れがあるので、積算降水量300mm毎又は1か月おきに薬剤散布を行う。

2 かいよう病 (並)

[予報の根拠]

- 1) 8月中旬の果実での発生面積率10.0%(平年8.3%)、発病果率0.5%(平年0.6%)は平年並である。

[防除上の注意]

- 1) 発病した枝葉は伝染源となるので可能な限り取り除き園外に持ち出して焼却する。
- 2) 風雨による枝葉の損傷を少なくするため防風垣を整備する。特に台風の襲来が予想される時は事前に薬剤散布を行う。

3 ミカンハダニ (並)

[予報の根拠]

- 1) 8月中旬の発生面積率は40.0%(平年50.1%)で平年よりやや少、寄生葉率12.0%(平年13.3%)は平年並である。

[防除上の注意]

- 1) 生息密度が高くなると防除が困難になるので、寄生葉率30%(1葉当たり虫数0.5～1頭)を目安に防除を行う。

4 チャノキイロアザミウマ (並)

[予報の根拠]

- 1) 8月中旬の発生面積率5.0%(平年7.1%)、寄生果率0.1%(平年0.3%)は平年並である。

[防除上の注意]

- 1) 果実に寄生すると収穫果実の外観を損なうので、10果当たり虫数3頭を目安に増殖初期に防除する。

1 炭疽病（やや少）

[予報の根拠]

- 1) 8月中旬の発生面積率17.6%（平年61.6%）は平年より少、 m^2 当り病葉数5.2葉（平年6.2葉）は平年並である。

[防除上の注意]

- 1) 新芽の生育期に雨が多いと発生しやすい。開葉期に防除を行い、多発生が予想されるときには追加防除する。

2 もち病（並）

[予報の根拠]

- 1) 8月中旬の巡回調査では発生未確認である。
（平年値は、発生面積率10.0%、 m^2 当り巻葉数0.5枚）

[防除上の注意]

- 1) 秋芽の生育期に雨が多いと感染しやすい。特に中山間地域では発生が多いので秋芽の生育期に防除する。

3 輪斑病（並）

[予報の根拠]

- 1) 8月中旬の輪斑病の発生面積率17.6%（平年15.3%）、 m^2 当り病葉数0.3葉（平年0.7葉）は平年並みである。

[防除上の注意]

- 1) 萌芽から開葉期にかけて包葉などが取れたときにできる傷口から輪斑病菌が感染すると新梢枯死症が発生するので、輪斑病の発生ほ場では秋芽の萌芽期～2葉期に防除する。特に発生が多いほ場では5～7日間隔で2回防除する。

4 チャノコカクモンハマキ（並）

[予報の根拠]

- 1) 8月中旬の巡回調査では発生未確認である。
（平年値は、発生面積率3.7%、 m^2 当り巻葉数0.2葉）

[防除上の注意]

- 1) 都城市、三股町に設置したフェロモントラップ調査では、発蛾最盛期は7月21日～25日で、次の発蛾最盛期は平年よりやや早い8月下旬と予想される。
2) 防除適期は発蛾最盛日から7～10日後である。

5 チャハマキ（並）

[予報の根拠]

- 1) 8月中旬の巡回調査では発生未確認である。
（平年値は、発生面積率3.7%、 m^2 当り巻葉数0.1葉）

[防除上の注意]

- 1) 通常チャノコカクモンハマキと同時に防除できるが、両種の発蛾最盛期が10日以上異なる場合は別に防除する。

6 カンザワハダニ（並）

[予報の根拠]

- 1) 8月中旬の発生面積率29.4%（平年23.7%）、寄生葉率0.8%（平年1.7%）は平年並である。

[防除上の注意]

- 1) 同系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤の口・テ・ション散布を実施する。

7 チャノキイロアザミウマ (やや多)

[予報の根拠]

- 1) 8月中旬の発生面積率47.1% (平年45.8%) は平年並、払落虫数11.8頭 (平年4.2頭) は平年より多である。

[防除上の注意]

- 1) この時期は卵・幼虫・蛹・成虫が混在し、とくに蛹は地表面にいて防除効果が低いので残効性の長い薬剤が1週間間隔での連続散布を行う。

8 チャノミドリヒメヨコバイ (やや少)

[予報の根拠]

- 1) 8月中旬の発生面積率41.2% (平年58.4%) は平年よりやや少、払落し虫数2.2頭 (平年3.5頭) は平年よりやや少である。

[防除上の注意]

- 1) チャノキイロアザミウマとの同時防除とする。

9 クワシロカイガラムシ (多)

[予報の根拠]

- 1) 8月中旬の巡回調査では発生面積率41.2% (平年11.2%) は平年よりやや多、寄生株率22.4% (平年3.5%) は平年より多である。

[防除上の注意]

- 1) 最近、増加傾向にあるので早期発見に努める。(周縁部から発生しやすい。)
- 2) 防除適期は幼虫ふ化開始から1週間後、または幼虫ふ化最盛期なので、ふ化状況をよく観察して防除する。
- 3) 薬剤散布は、成木園で10a当たり1,000リットル程度を目安に、噴口を茶株の中に差し込むなどして枝幹に十分かかるようにていねいに散布する。

その他

- 1 農薬適用の有無などについては次のホームページで確認する。

日本植物防疫協会ホームページ <http://jppn.ne.jp>

農林水産省ホームページ <http://www.maff.go.jp/nouyaku/>

- 2 農薬の使用に当たっては、農薬使用基準の遵守並びに危被害の発生防止に努める。特に水質汚濁性農薬ベンゾエピン剤 (商品名、マリックス乳剤、粒剤等) は使用しないこと。

- 3 発生量 (程度) の区分

多	い	(高	い)	やや多いの外側10%の度数の入る幅
やや多い		(やや高	い)	平年並の外側20%の度数の入る幅
平年並				平年値を中心として40%の度数の入る幅
やや少ない		(やや低	い)	平年並の外側20%の度数の入る幅
少ない		(低	い)	やや少ないの外側10%の度数の入る幅 (平年値は過去10年間の平均)

- 4 予察情報の種類

病害虫防除・肥料検査センターから発表する情報は次の5つです。

- 1) 予報・・・向こう1か月の発生状況を予測し、毎月25日前後に発表する。
- 2) 注意報・・・主要な病害虫の多発生が予想され、かつ早めに防除が必要な場合に発表する。
- 3) 警報・・・主要な病害虫の大発生が予想され、かつ緊急に防除が必要な場合に発表する。
- 4) 特殊報・・・県内で初めて発生を認めた病害虫がある時や、病害虫の発生様相が特異な時に発表する。
- 5) 防除情報・・・注意をうながす必要がある病害虫の発生状況や、各種の防除技術指導情報について随時発表する。

お知らせ (<http://www.jppn.ne.jp/miyazaki/>)

病害虫防除・肥料検査センターでは、ホームページで情報を提供しています。予察情報の根拠となる地域別調査データ、防除対策等を掲載しています。ぜひご利用ください。

【文書取扱】

病害虫防除・肥料検査センター 櫛間

TEL:0985-73-6670 FAX:0985-73-7499

E-mail: byogaichu-hiryo

@pref.miyazaki.lg.jp